
墮天使の口笛

二宮 揺楽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

堕天使の口笛

【Nコード】

N8477B

【作者名】

二宮 揺楽

【あらすじ】

あの時アレは生まれたのかもしれない……

0 序章

墮天使の口笛

0 序章

——これは、記憶を変えられた天使のお話。

何も知らない天使は、綺麗な綺麗な涙を流しました——

物語の始まる音。

それは、窓ガラスが割れるという奇妙極まりない音だった。

ファンタジックな現実を受け入れることが出来ないまま、彼女と長い時間を共にする彼。

ファンタジックな現実を受け入れてもらえないまま、彼と長い時間を共にする彼女。

同じような性格、違う世界の者。

それゆえに生まれるたくさんのすれ違い。

それを超えた時に果たして幸せは訪れるのだろうか？

地上と天界、出会うはずの無い二人が出会ったのは運命か、はたまた神の悪戯か。

どちらにしろ、それが最悪の結末を迎えてしまったことに変わりはない。

「天使とは愚かな生き物です……」

それは雪に消えた最後の呟き。

誰にも届かなかった、小さな悲鳴。

涙も何も残っていない、信じることも出来なくなった。

天使として存在するべきではなかった、という後悔の念が世界を包む。

一緒にいたいと願っただけなのに……

こんな小さな望みさえ叶わない世界に、何を信じることが出来る？
心に残る現実も、確かではない。

この記憶は、私のものではないのだから。

私はもう仲間を信じることを忘れました。

ただ、自分の記憶に残る貴方を待ち続けていました。

たとえそれが「偽造」された記憶だとしても……。

貴方の紡いだ優しい言葉は、全て憎しみという名の風に消えました。
穢れた私の心に響くのは、哀しい復讐の旋律だけでした。

私達が存在していた日々。

それはもとに戻らないから、美しかったのかもしれない……。

——天使の記憶は、復讐という名の黒き花となり宙を舞っていきま
した——

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8477b/>

堕天使の口笛

2010年10月26日02時44分発行